

ジェンダー研究所

2016年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／副学長 猪崎 弥生

グローバル女性リーダー育成研究機構が発足して2年目の年度が終了しました。ジェンダー研究所は、研究プロジェクトの推進や、国内外から多くの第一線の研究者を招聘しての国際シンポジウムやセミナー開催、大学院生を対象とした教育プログラムの実施などの事業に、精力的に取り組みました。同じく機構下に設置されたグローバルリーダーシップ研究所と共に、グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成という目標に向けて着実に前進した1年だったと思っております。

2016（平成28）年9月には、第1回の機構の評価委員会が開催されました。学外から委員会にご参加くださった、目黒依子先生（上智大学名誉教授）、中林美恵子先生（早稲田大学教授）からは、お茶の水女子大学および両研究所前身機関の、過去の実績を資源とする形の事業計画について、その意欲と社会的意義を評価していただき、成果を期待する旨のコメントを頂戴いたしました。また、設立以来約1年半の事業活動については、大学および関係者のコミットメントの高さを肯定する評価をいただいています。今後の活動への提言としては、両研究所の連携や、研究面での深化の重要性、数値的な目標達成だけでなく、質を意識した成果指標設定が望ましいなど、様々な価値あるご指摘をいただきました。両研究所の連携については、年度後期に、2018（平成30）年度開催予定の機構が主催する、国際シンポジウムの準備委員会が発足するなどの進捗があり、その他の点についても、改善のための検討が進められています。

この2年間は、ジェンダー研究所にとって、大学のミッション達成戦略と新設された機構の枠組みのもとで、どのような発展的な取り組みが可能かを探りながら、拡大を図る段階にあったと思います。次年度以降は、これまでの経験を糧に、また新たな事業展開が進められることでしょう。

本学が、「グローバル女性リーダーの育成」というミッションの達成に向けて、研究教育活動に真摯に取り組んで、実効性の高い事業を推進し、その成果をグローバルに発信していくことは、本学の、ひいては日本の高等教育機関、研究機関の、グローバルな研究教育現場での価値を高めることにも寄与すると心得て、引き続き事業に取り組む所存です。上記評価委員会にご参加くださった学内外の先生方を始め、本研究所事業へご支援、ご協力くださいました皆様に、心から御礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

ジェンダー研究所2016年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長 石井クンツ 昌子

ジェンダー研究センターからジェンダー研究所に改組された2年目である2016（平成28）年度は、前年度に立ち上げた組織体制を基盤として、活動の幅を広げる年となりました。所長以下、専任教員、研究員、研究系スタッフ、事務系スタッフが協力して研究プロジェクト推進や国際シンポジウム等開催に取り組みました。その結果、年間を通して活発な事業活動が展開され、前年を上回る数の事業数をこなし、研究所の質を向上させる成果を残すことができたと自負しています。

研究所事業の核となっている研究プロジェクトについては、前年度から引き続いての実施プロジェクトはその内容を深化させており、さらに、外部資金を獲得した2件を含む4件の研究プロジェクトが新たに開始されるなどの広がりも見られました。また、研究プロジェクトが主体になっての国際シンポジウムやセミナーも数多く開催され、研究がけん引する事業形態の方向性が、高い成果を上げていると理解しています。

国際シンポジウム等開催の際、参加者に感想票を書いてもらうことを促していますが、回収した感想文面には、当該イベントの開催価値を認める声も多く、研究所が企画・運営するひとつひとつのイベントが日本のジェンダー研究発展に果たしている役割は、決して小さいものではないと判断できるかと思えます。特別招聘教授やシンポジウム等の登壇者たちから、意義深い事業に参加できたとの謝辞を受け取ることも少なくありません。また、2016年度には、グローバル女性リーダー育成研究機構評価委員会が開催され、評価委員からは、現在の「研究」を中心に据えた事業推進形態やそこからの成果、また、女性文化資料館開設以来40年の歴史の中で蓄積されてきた実績を生かしての事業展開を評価するコメントをいただきました。こうした評価を受ける事業実績を上げられていることを、とても嬉しく思っていますが、同時に課題も指摘されており、今後は更にジェンダー研究所の活動を強化していく所存です。

研究所では、事業成果の社会還元を意識を注いでいますが、大学ミッションの一翼を担う存在として、大学諸事業への貢献や学内への成果の還元も重要です。シンポジウムやセミナー開催のほかに意識して実施しているのは、国際的な学びの環境の提供です。特別招聘教授プロジェクトでは、英語の使用を常としているほか、グローバルな研究・教育活動を日常としている研究者たちと接することで、ボーダーレスな知性と感性を学び取ってもらうことも意図しています。グローバルに活躍する女性リーダーの育成に、この学びの機会が役立つことを期待し、かつこの場への参加の呼びかけに、さらに力を入れる必要を感じているところです。

また、研究所事業の充実は、学内の他機関との共催セミナーの開催や、学内研究者の研究所開催イベントへの登壇、参加など、様々な形の学内各方面からの協力の拠るところも大きいです。そしてこの点は、学外の協力者、協力機関についても同様であり、ここに、心からの感謝を表します。